図書館だより

第５号

２０２２年　11月号

読書週間が始まりました！

「この１冊にありがとう」は、2022 年の読書週間の標語募集の入選作品です。

＜標語に対する作者のコメント＞

読書で心が震える体験は、何物にも代え難い奇跡のようなものだと思います。そして、自分の未来にはそんな奇跡がまだまだたくさん待っているという妙な確信もあります。本に関わっているすべての人に感謝を伝えたいです。

新刊が入りました！

今回は、生徒の皆さんからのリクエスト本が入りました。皆さんと同じ一高生が選んだ本です。きっと紹介した標語の作者のように心が震える体験をした本だと思います。ぜひ未来の奇跡を探しに図書館に来てください！

４冊紹介します！

ぼく　モグラ　キツネ　馬

８歳の子どもから、80 歳の大人まで。圧巻のイラストで読む、人生寓話。少年とモグラ、キツネ、馬の冒険と心の交流を美しいイラストとともに描いたアート絵本“THE BOY，　THE MOLE，　THE FOX AND THE HORSE”の日本語版。

封印再度

50 年前、日本画家・香山風采(ふうさい)は息子・林水(りんすい)に家宝「天地の瓢(こひょう)」と「無我の匣」を残して密室の中で謎の死をとげた。不思議な言い伝えのある家宝と風采の死の秘密は、現在にいたるまで誰にも解かれていない。そして今度は、林水が死体となって発見された。２つの死と家宝の謎に人気の犀川・西之園コンビが迫る。サブタイトルも秀逸。

両手にトカレフ

寒い冬の朝、14 歳のミアは、短くなった制服のスカートを穿き、図書館の前に立っていた。そこで出合ったのは、カネコフミコの自伝。フミコは「別の世界」を見ることができる稀有な人だったという。本を夢中で読み進めるうち、ミアは同級生の誰よりもフミコが近くに感じられた。一方、学校では自分の重い現実を誰にも話してはいけないと思っていた。けれど、同級生のウィルにラップのリリックを書いてほしいと頼まれたことで、彼女の「世界」は少しずつ変わり始める――。

小説　千本桜　弐

　帝都にサーカス団『大正摩訶不思議曲馬団』がやってきた。鏡音姉弟を連れて観覧へ出かける未來だったが、そこで鈴と錬は忘れていた悲しい記憶を呼び起こされてしまう。心の奥底にある闇にとらわれたふたりの運命は？

※弐～六まで入りましたが、壱が在庫切れでした。現在入荷待ちです。m_ _m